

東国分爽風学園
第10回 義務教育学校の設置に関する検討会
別冊資料

資料1：プロジェクト会議だより⑦、⑧

資料2：ふるさと探究科 保護者向け周知文書

資料3：中学校教員による乗り入れ授業実施に関するアンケート結果

東国分爽風学園 プロジェクト会議だより ⑦

- 1 日 時 令和3年12月6日（月） 9時30分～10時50分
- 2 会 場 市川市立東国分中学校
- 3 参 加 者 ・オブザーバー：大学教授 ・東国分中・曾谷小・稲越小の校長・教頭・教務主任
(14名) ・教育委員会（指導課・学校環境調整課）の担当者
- 4 会議内容の概要

(1) 東国分爽風学園の取り組みに関する、広報誌等への記事の掲載について

○「教育いちかわ（11月30日WEB発行）」および「市川よみうり（11月27日発行）」に、今年度から取り組んだこと（合同WEB会議等）や、現在も取り組んでいること（中学校の教員による小学校での授業）。そして、今後の取り組みを予定していること（新しい教科）が掲載されたことを報告しました。

(2) 新しい教科について

○前回のプロジェクト会議で話し合われた「ふるさと探究科」の活動内容について、各学校の教務主任の先生より、各校の先生方に説明をしました。その説明を受けて、先生方から出された意見を、プロジェクト会議で共有しました。

<各学校から出された主な意見>

- ・総合的な学習の時間では、学年や学校ごとで取り組む内容が変わることが多いが、ふるさと探究科では、各学年でやるのが明確になり、良いと思う。
- ・9年間を通して、一貫したテーマで学習を行うことは良いと感じる。
- ・児童生徒が、テーマを意識して行えるようになると主体性も高まり、良いと思う。
- ・「ふるさと」や「地域」に目を向けて学習していくことで、地域の色々な人に出会えるのは良いことだと思う。
- ・各学年の内容については、もっと具体的に考えていくと見通しが持てるのではないかな。
- ・愛校心に目を向ける内容も必要ではないかな。
- ・3校の独自性をどう出していくのかが、今後の課題である。
- ・子供たちが「これをやりたい」と思ったことに対応できるのかな。
- ・次年度から実践を積み重ねて、東国分爽風学園の年間計画を確立していくよう、工夫する必要もあるのではないかな。
- ・今まで、総合的な学習の時間で実践してきた学習内容を踏まえて、その内容を発展させていくとスムーズに実施できるのではないかな。

↓

次回のプロジェクト会議までに、「各学年で実施する具体的な内容」について、各学校の教務主任の先生方を中心に話し合い、素案を作成することになりました。

<実施に当たっての教育委員会への要望>

- ・3校が同じ方向を向いて「ふるさと探究科」を進めていけるようにするために、3校合同の研修会を実施してもらいたい。

↓

ふるさと探究科の実施に向けた研修会を、今年度中に実施できるよう、教育委員会の関係部署に依頼することになりました。

(3) 部活動について

○塩浜学園の実践を基に、東国分爽風学園で実施する際にはどんな検討が必要か、話し合いました。

<塩浜学園の実践例>

	運動部	文化部
実施部活動	・野球(男子) ・サッカー(男子) ・バレーボール ・バスケットボール ・卓球 ・テニス	・吹奏楽部 ・美術部
対象児童	5・6年生 ※吹奏楽部は4年生から参加可能	
参加形態	希望制	
参加の意思の確認	1年ごとに参加の有無の確認	
参加人数	5・6年を合わせて15~20人 ※5年生の在籍人数 23人 6年生の在籍人数 27人	
実施曜日	月曜日から土曜日 ※月曜日の朝と水曜日の放課後を「ノー部活タイム」とし、合わせて1日の休業日としている	
実施時間	・平日…長くとも2時間程度 ・土日…3時間程度	
終了時刻	・夏季…中学生の終了時間の30分前(18時) ・冬季…中学生の終了時間と同じ(17時)	
大会参加	・中学校の大会には参加できない	

<出された主な意見>

- ・実施に向けた、課題の洗い出しについて。
→小学生を中学校へ連れていくのは誰か。
小学生の通学路を変更する必要がある。
下校時間はどうするのか。等
- ・全国の義務教育学校での実践から、中学3年生が引退した後、小学6年生が参加するという方が、中学への進学を見据えて現実的ではないか。
- ・小学生と中学生の体格差が心配である。
- ・地域クラブ等の実態として、野球やサッカー、ミニバスケットボールなどは、小学1年生から参加できるところが多く、低学年から高学年が混じって練習試合を行うこともある。
- ・中学生の公式戦には小学生は出場できないが、練習試合なら参加できる。
- ・人数が少ない部活では、小学6年生が参加することのメリットはある。

①今年度中に、2校の小学6年生が東国分中学校の部活動を体験できる機会を設ける。

②実際に参加する中で出てくる課題等を検証していく。

以上2点を、今後は実施していくこととしました。

(4) 6年生を対象とした、東国分中学校校舎での学習の実施について

○2校の小学6年生の子供たちが、中学校校舎で学習する際の課題について話し合いました。

<主な意見>

- ・部活動と同様に、実施するにあたり、どんな課題があるのかを洗い出す必要がある。
→朝から中学校へ登校し、一日過ごすのか。
通学路の変更が必要になる。
一日いる場合には、給食をどうするのか。
小学生用の机や椅子は確保できるのか。等

①部活動を体験する日と合わせて、小学6年生が東国分中学校校舎で過ごす日を設ける。

②実際に体験する中で出てくる課題等を検証していくこと。

以上2点を、今後は実施していくこととなりました。

(5) その他

○東国分爽風学園のキャラクター募集について

- ・3校の一体感を更に高め、児童生徒だけでなく、地域や保護者の方々にも一層愛着を持ってもらえるよう、東国分爽風学園の「キャラクター募集」の提案がありました。
- ・12月の下旬より募集を開始し、来年の1月下旬ごろに決定する予定です。

○12月23日の終業式における「3校合同のオンライン集会」実施について

- ・夏休みに入る前に実施した集会と同様に、冬休みに入る前の終業式でも、3校をオンライン会議システムでつなぎ、「冬休みの過ごし方」について合同集会を実施する予定です。

5 次回の予定 令和4年1月20日(木)

お問い合わせ先(事務局): 市川市教育委員会 学校教育部学校環境調整課
Tel: 047-702-5355/Fax: 047-383-9203

東国分爽風学園 プロジェクト会議だより ⑧

- 1 日 時 令和4年1月20日(木) 9時30分～11時00分
- 2 会議形式 オンライン会議
※新型コロナウイルス感染症の蔓延防止等重点措置発令のため
- 3 参加者 ・東国分中、曾谷小、稲越小の校長、教頭、教務主任
(11名) ・教育委員会(指導課、学校環境調整課)の担当者
- 4 会議内容の概要

(1) 報告事項

①新しい教科「ふるさと探究科」に関する教育委員会会議での審議について

今年1月の教育委員会会議で、「ふるさと探究科」について審議され、可決されました。4月からは正式に新しい教科として「ふるさと探究科」を実施することとなります。

「ふるさと探究科」

小学3年生以上で学習している「総合的な学習の時間」を使って実施し、曾谷・稲越・東国分地域の特色ある環境を学習の素材とし、子どもが自ら課題を見つけ、その課題を解決するために探究していく学習を展開していきます。

②乗り入れ授業(算数)実施等に関する、小学6年生へのアンケート調査の結果について

中学校の数学の先生による「乗り入れ授業」について、2校の6年生にアンケートを実施しました。

	曾谷小学校(70人)	稲越小学校(29人)
①中学校の先生の授業を受けてみての感想	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容がわかりやすかった。 ・こういうやり方もあるんだと思った。 ・算数が好きになった。 ・中学校への不安が無くなった。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の細かいところまで教えてもらった。 ・まとめがわかりやすかった。 ・自分で取り組むだけではなく、友だちと協力して学ぶこともできることを知った。等
②他にはどんな授業を受けてみたいか (上位4つを記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・美術 20人 ・社会 19人 ・音楽 19人 ・理科 18人 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育 18人 ・技術 11人 ・美術 10人 ・社会 9人
③今後、どのような取り組みをしたいか	<ul style="list-style-type: none"> ・稲越小学校の子と仲良くしたい。 ・一緒に勉強したり、遊んだりしたい。 ・3校のみんなでイベントや行事などをしてほしい。 ・SDGsについての学習を一緒にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3校のみんなで授業をしてみたい。 ・みんなで協力をして問題を解いてみたい。 ・校外学習や運動会などの行事をみんなで一緒にしたい。 ・3校で世界を元気にしたい。

(2) 協議事項

①「ふるさと探究科」の学習指導要領の作成状況について

4月からの実施に向けて、現在作成中の「ふるさと探究科」の学習指導要領※の内容について協議し、出された意見を反映していくこととしました。

※「学習指導要領」は、文部科学省が各学校で教育課程(カリキュラム)を作る際の基準(学習内容等)を定めたもので、「ふるさと探究科」は、東国分爽風学園独自の教科となるため、学校の実態等に合わせて作成を進めています。

②「ふるさと探究科」の実施に関する教職員を対象とした研修について

前回のプロジェクト会議で学校から要望が出ていた、教育委員会による「教職員向けの研修」の内容について、意見交換をしました。

＜各学校から出された主な意見＞

- ・ふるさと探究科を進めていく上で、基となる「総合的な学習の時間」について改めて確認したい。
- ・「探究的な学習」の具体的な取り組みの事例を知りたい。
- ・まずは、教師自身がこの地域の事を良く知らなくてはならないので、この地域を良く知っている地域の方や教職員、そして博物館の学芸員の方から話を聞きたい。
- ・ふるさと探究科を、各学年でどのように進めるのかなど、イメージできていない先生方が多いので、この研修に期待している。 等



教職員向けの研修を2月中に行い、4月の実施に向けた準備をしていくこととなりました。

③中学校の教員による、小学校の授業への乗り入れ授業について

算数以外の教科も含め、小中の教職員による相互授業が実施できるよう、今後も話し合いを重ね実施に向けた検討をしていくこととなりました。

④近隣の小学校との連携について

これまで、プロジェクト会議で話し合われた内容を「たより」にまとめ、東国分爽風学園と近隣の小学校の保護者の方に情報提供をしてきましたが、改めて、近隣小学校との連携について協議をしました。

- ・これまでのプロジェクト会議において、東国分爽風学園の3校に転入してくる児童生徒や、近隣の小学校から東国分中学校へ進学する児童に対して、不安感や疎外感を感じることを確認してきた。
- ・今まで以上に近隣校にも情報を発信し、一緒に取り組めることは積極的に声をかけ、実施できるようにする必要がある。
- ・東国分中学校の生徒会主催の「中学校の生活について」の説明動画を、東国分爽風学園以外の近隣の小学校にも届けたいと考えている。
- ・合わせて、中学校の部活動体験についても、東国分中学校へ進学を予定している近隣校の小学生にも声をかけ、実施したいと考えている。基本的には、各部活動の見学をしてもらいながら、実際に体験できる部活動については体験をしてもらいたいと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、日程や時間について調整し、実施していく。



今後も、近隣小学校との連携を今まで以上に図り、一緒に実施できる内容について検討していくこととしました。

(3) その他

①小中一貫教育に関する2回目の意識調査の実施について

昨年4月に実施した、3校の児童生徒、保護者、教職員を対象とした意識調査を、1月下旬から2月上旬にかけて行いました。

5 次回の予定 令和4年3月上旬ごろ

お問い合わせ先(事務局)：市川市教育委員会 学校教育部 学校環境調整課
Tel：047-702-5355/Fax：047-383-9203

令和4年〇月〇日

保護者 様

東国分爽風学園
市川市立〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇

「ふるさと探究科」の実施について

晩冬の候、保護者の皆様にはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は今年度4月より東国分爽風学園として小中一貫教育を推進しております。さらなる充実を目指し、令和4年度より「ふるさと探究科」を実施いたします。下記概要をお読みいただき、実施へのご理解ご協力をお願いいたします。

記

- 1 名 称 「ふるさと探究科」
- 2 領域設定の経緯 小中一貫型小・中学校には、小中一貫教育の軸となる新教科等の創設、実施が設置者である市教育委員会の判断によって認められています。これは、文部科学省が示した「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き」を根拠としています。
令和3年度4月より、本学園は市教育委員会や有識者の意見を伺いながら小中一貫教育の軸となる新教科等設置の検討を重ねてきました。
- 3 領域の特色 地域の特色ある環境を学習の素材とし、子どもが自ら課題を見付け、課題を探究していく学習を展開していきます。子どもたちはこの学習を通して地域への愛着心や学習指導要領で求められている「生きる力」を身に付けていきます。
- 4 実施方法 「ふるさと探究科」は小学校3年生以上の「総合的な学習の時間」を使って実施します。時間割の「総合的な学習の時間」が令和4年度より稲越小学校、曾谷小学校、東国分中学校では「ふるさと探究科」となります。通知表の記載も「ふるさと探究科」となります。評価は、これまでの総合的な学習の時間と同様に、記述による評価となります。

ふるさと 探究科

さあ！
ふるさと探究の
旅にしよう！

発見

地域の課題を自分の目で
見つける。



発信

様々な機会（ICT活用を含む）を利用して調べたことを
みんなに知らせる。

追究

わからないことを明らかに
するために調べ続ける。



交流

友達や家族、地域の方々と
意見の共有や交流をする。



令和4年度より東国分爽風学園で、
「ふるさと探究科」がスタートします。
小学3年生から中学3年生まで総合的な学習の時間
を使って探究的な学習を実施します。

○曾谷小学校（6年生 70名）

1 中学校の先生（高橋先生）の授業を受けてみてどうでしたか？

- ・授業の内容がわかりやすかった。
- ・わかりやすく、こういうやり方もあるのだなと思った。
- ・算数をもっと好きになった。
- ・算数は嫌いだったが、先生の授業で好きになった。
- ・中学校のやり方の対策ができた。
- ・中学校への不安が無くなった。

※上記と同じ内容が大半を占めており、どの児童も好意的に受け止めていました。

2 他にどんな教科を受けてみたいですか？（※複数回答可）

美術	20人	技術	14人
社会	19人	算数（数学）	13人
音楽	19人	保健体育	11人
理科	18人	家庭	10人
英語	15人	国語	5人

※美術、社会、音楽、理科の希望者が多い。社会は、現在学習している「歴史」の学習の影響か。

3 東国分中学校・稲越小学校とこれからどんな取り組みがしたいですか？

- ・3校で「爽風学園フェスティバル」のようなイベントをやってみたい。
- ・一緒に遊んだり、勉強したりしてみたい。
- ・SDGsの取り組みを考えたい。
- ・音楽などの発表会をしたい。
- ・行事を一緒にやりたい。
- ・共同で畑づくりをしたい。
- ・部活を一緒にしたい。

※3校一緒に学習や行事を行いたいという意見が多くありました。

○稲越小学校（6年生 29名）

1 中学校の先生（高橋先生）の授業を受けてみてどうでしたか？

- ・わかりやすかった。
- ・まとめが覚えやすかった。
- ・算数の細かいところまで教えてもらった。
- ・中学校のことがわかった
- ・早く中学校に行きたいと思った。中学校の授業を先取りできた気がしてよかった。
- ・毎回楽しみだった。わくわくした。安心して取り組めた。
- ・いつもと違って真面目に取り組んだ。
- ・いつもは「面倒くさい」と思ってしまいが、話が本当にためになった。
- ・普段は手があげられないが、今回は手を挙げることができた。
- ・「自分で考える」「友達の考え方を聞く」「自分の考え方を見直し、よりよい考え方をする」という流れを学べて、算数をもっと好きになった。
- ・協力して取り組むことを学んだ。

※どの児童も、大変好意的に受け止めていました。

2 他にどんな教科を受けてみたいですか？（※複数回答可）

保健体育	18人	音楽	6人
算数（数学）	12人	理科	5人
技術	11人	英語	4人
美術	10人	国語	3人
社会	9人	家庭科	3人

※保健体育、数学、技術、美術の希望者が多い。数学は、高橋先生の授業の効果か。

3 東国分中学校・稲越小学校とこれからどんな取り組みがしたいですか？

- ・意見を出し合ったり、協力したりして問題などを解いてみたい。
- ・学校行事、合同の校外学習、体育大会、演劇などのイベント。
- ・自分のことや学校のことを紹介する。
- ・協力して、なにか大きいものを作りたい。
- ・協力して世界を元気にしたい。
- ・ボランティア活動をしたい。
- ・友達をたくさんつくりたい。

※ふるさと探究科のねらいにあった活動ができそうです。